

2019年度 研究助成

助成対象期間

2019年4月1日～2020年3月31日

食物アレルギーに関連する問題解決を目指す
研究者及び研究グループに対する助成事業です。

●対象研究領域

1. 食物アレルギー対応食品に関する研究
2. 食物アレルギーの予防に関する研究
3. 食物アレルギーの診断・治療に関する研究
4. 食物アレルギーに関する工場内等での衛生管理に関する研究
5. 食物アレルギーに関するその他研究（社会科学的な研究を含む）

上記領域はすべて重要ですが、

特に「①食物アレルギー対応食品に関する研究」や

「②食物アレルギーの予防に関する研究」の応募を歓迎いたします。

●募集期間

2018年7月13日(金)から9月30日(日) 消印有効

助成区分及び助成件数等

共同研究

上限600万円×5件（予定）

●専門領域を異にする複数の研究者（※）が、同一テーマに関し、広範に共同研究する場合を対象にします。

●代表研究者の他に分担経費が100万円（税込）を越える共同研究者が一人以上加わることが必要です。

※同一機関（大学等）の同一部署（学部等）に所属する者を共同研究者に指名することはできません。

なお、異分野、他機関との積極的な交流を期待しています。研究体制に食品科学の研究者が入り、医学、薬学、保健、栄養等、異分野かつ他機関が参加していることを歓迎いたします。

個人研究

上限200万円×15件（予定）

●若手研究者（2019年4月1日時点で45歳以下）による単独研究を対象とします。

※両区分とも、提案が適切であれば、新たに食物アレルギーに取り組む方も積極的に支援したいと考えています。

※2018年度（平成30年度）実績：採択件数（共同研究：6件、個人研究：15件）助成金総額約6,304万円

その他にも応募条件等があります。

7月中旬に公開予定の募集要項を必ずご確認ください。



2018年度(平成30年度) 研究助成課題 (助成対象期間：2018年4月1日から2019年3月31日)

共同研究助成 (6件)

50音順、敬称略

	氏名	所属機関・役職	課題名
1	北浦 次郎	順天堂大学大学院医学研究科 アトピー疾患研究センター 先任准教授	抑制型受容体に着目した食物アレルギーの予防・治療法開発
2	常山 幸一	徳島大学大学院 医歯薬学研究部 疾患病理学分野 教授	経皮感作による甲殻類アレルギーモデル動物の作成とプレバイオティクス投与による予防効果の解析
3	松永 佳世子	藤田保健衛生大学 教授	魚アレルギー免疫療法を見据えた複合的低アレルゲン化コンポーネントの開発
4	松本 健治	国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 部長	ヒスタミン遊離因子の阻害による食物アレルギー治療薬の開発
5	村田 幸久	東京大学大学院農学生命科学研究科 准教授	食物アレルギー診断マーカーの応用と診断キットの開発
6	森田 栄伸	島根大学医学部皮膚科学講座 教授	ω -5 グリアジン欠損食用小麦の開発： ω -5 グリアジン感作型小麦アレルギーの根絶に向けて

個人研究助成 (15件)

50音順、敬称略

	氏名	所属機関	課題名
1	伊藤 靖典	富山大学医学部小児科 助教	食物アレルギー児の食事指導における葛根湯併用の耐性誘導獲得効果の検討
2	上番増 喬	徳島大学大学院医歯薬学研究部 予防環境栄養学分野 特任助教	母親の腸内環境が胎児の出生後の食物アレルギー発症に及ぼす影響の解析
3	岡田 祐樹	昭和大学医学部小児科学講座 助教	新入大学生を対象とした成人食物アレルギー調査研究
4	倉島 洋介	東京大学医科学研究所 国際粘膜ワクチン開発研究センター 特任准教授	経口免疫療法によるエフェクター細胞の形質変化の誘導機序の解析
5	黒谷 玲子	山形大学大学院理工学研究科 バイオ化学工学部 准教授	新規生理活性物質 SCGB3A2 の食物アレルギー改善薬としての検証
6	小西 瑞穂	国立成育医療研究センター 研究所 研究員	心因性食物アレルギー形成の解明と寛解プログラムの作成 -食物アレルギーの真の寛解へ-
7	小林 征洋	国立大学法人東京海洋大学 助教	魚類アレルゲン(パルプアルブミン)のデータベース構築に向けた基礎的研究：多魚種にわたる魚類パルプアルブミンの含有量および免疫化学的性状の解明
8	佐藤 陽	いわき明星大学 薬学部 准教授	新規アナフィラキシー治療薬の開発ービオチニル化ペプチドの有効性評価ー
9	杉浦 至郎	あいち小児保健医療総合センター アレルギー科 医長	急速経口免疫療法後に残存する運動誘発症状の機序に関する検討 -生体内における好塩基球活性化の可能性-
10	高木 秀明	宮崎大学医学部医学科感染症学講座 免疫学分野 助教	食物アレルギーに対する舌下免疫療法の有効性の検証と作用機序の解明
11	谷田 守	金沢医科大学 医学部 生理学Ⅱ講座 准教授	アナフィラキシー低血圧時の交感神経興奮を惹起する脳内機構の全容解明
12	中島 陽一	藤田保健衛生大学医学部小児科 講師	低アレルゲン化食品を用いた魚アレルギーに対する新規治療法の開発
13	八木 久子	群馬大学大学院医学系研究科医科学専攻 小児科学分野 医員大学院生	新生児・乳児消化管アレルギーの診断にむけた革新的検査法の開発
14	吉岡 靖雄	大阪大学 微生物病研究所 ワクチン創成プロジェクト 特任准教授	独自の機能性ペプチドを用いた食物アレルギーに対する根治療法の開発
15	吉川 宗一郎	東京医科歯科大学 医歯学総合研究科 免疫アレルギー学分野 助教	新規脱顆粒インディケーターを用いたアレルゲン検出システムの構築とその応用

当財団のWebサイトから研究課題概要をご覧ください。ことができます。
https://www.miraizaidan.or.jp/specialist/grants/2017/02_result.html



ニッポンハム
食の未来財団

電話：029-893-4466

E-mail：info@miraizaidan.or.jp